

独立行政法人製品評価技術基盤機構
第7回契約監視委員会 議事概要

1. 日 時：平成23年 9月16日（金） 14：00～17：30

2. 場 所：製品評価技術基盤機構 本館2階北11、12会議室

3. 出席者：

委員長 藤本 瞭一 （早稲田大学理工学術院総合研究所 教授）
委員 大谷 惣一 （シュエット法律事務所 弁護士）
委員 西村 勝秀 （西村勝秀公認会計士事務所 公認会計士）
委員 鈴木 孝利 （独立行政法人製品評価技術基盤機構 監事）
委員 織 朱實 （独立行政法人製品評価技術基盤機構 監事）

4. 議題

- (1) 開会の挨拶
- (2) 平成22年度の契約実績について
- (3) 随意契約についての点検・見直し
- (4) 一者応札・応募についての点検・見直し
- (5) 契約に係る情報の公表について
- (6) その他

5. 議事概要

議題（1）開会の挨拶

議事に先立ち理事長から開会挨拶が行われ、続いて新委員となった監事から挨拶があった。

議題（2）平成22年度の契約実績について

調達担当者から平成22年度の契約実績について説明を行った。

- ・ 随意契約と競争入札の部署別割合と件数
- ・ 一者応札・一者応募。高落札率及び低落札率案件
- ・ 複数箇所同時入札・開札実施状況
- ・ 随意契約の状況
- ・ 公開見積実施結果
- ・ 平成18年度～平成22年度の契約適正化のための取組及び契約状況

議題（3）随意契約についての点検・見直し

調達担当者から競争性のない随意契約3件、競争性のある随意契約14件について説明し、質疑を行った。

委員からは次の意見があった。

- 随意契約について契約監視委員会が点検していることを各支所に再度周知すること。
- 会計監査人業務は、継続して品質が保たれる必要があり、毎年違う監査法人に変わることは望ましいことでない。

議題（４）一者応札・応募についての点検・見直し

調達担当者から一者応札・応募６９件について、契約を類型化した資料で内容の確認を行った。

委員からは次の意見があった。

- 落札率１００％となる入札については、原因についてその都度注意が必要。
- 落札率の極端に低いものは、応札後の役務実施において、品質が確保できたかどうか、作業終了後の満足度調査などで確認しておくこと。
- 平成２２年度に一者応札・応募となった案件は入札資格条件を拡大するなど、門戸を広くすること。
- 調達予定情報の周知を十分に行うこと。
- 応札者にとって魅力ある市場とは何であるかに留意し、入札の環境整備など更に努力が必要。

調達担当者から平成２３年度契約について、７月末までの集約資料を用い、随意契約、一者応札・応募の状況について説明を行った。

平成２３年度に新規に発生した随意契約を確認し、委員からは次の意見があった。

- 契約の適正化について、組織内の平準化を進め、地方で調達を行う担当者の適正化への理解度を上げていくこと。

議題（５）契約に係る情報の公表について

調達担当者から取引関係の公表について説明を行った。

議題（６）その他

事務局から総務省が９月に公表した「平成２２年度独立行政法人の契約状況について」の内容を説明した。

競争性のない随意契約、一者応札・応募の改善状況、今後の点検方法について、打合せを行った。

次回の開催は２月下旬を予定。

以上